

「今月の1枚」



写真1 モウソウチクのタケノコ。一日で25 cmほど伸びる。 (2012年4月26日 四国支所実験林)



写真2 きれいに管理されているとはいえないモウソウチク林 （2011年4月15日 高知市）



写真3 近隣の林を飲み込んで広がるモウソウチク林 （2012年4月21日 高知市）

モウソウチク（イネ科） *Phyllostachys heterocycla* f. *pubescens*

18世紀頃中国から移入された外来植物。タケノコとして食用とされる他、かつてはタケ材も広範に利用されてきました。

しかし、中国からの安価なタケノコの流入や石油製品の普及、そして山里で竹林を管理する人が少なくなってしまうなどの理由が相まって、あちこちに放置竹林が生じ大きな問題になっています（写真2）。

モウソウチクは日本に生育する竹の中で最大で、高さ15m～20mにも達します。隣接する植生（森林）がそれより低い場合、モウソウチク林に飲み込まれていく事態になります（写真3）。

わが四国支所の実験林にもモウソウチクの林がありますが、採っても採っても新しいタケノコが生えてきて。竹林が広がらないよう管理するのは並大抵のことではないと感じさせられます。

（写真・文：酒井 敦）

（No.230 2012.5.7 掲載）